

第29回

うつのみやこども賞だより

平成24年度 第10回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『オレたちの明日に向かって』

八束澄子／著（ポプラ社）

『夜の学校』

田村理江／作 佐竹美保／絵（文研出版）

～読んだ本の感想より～



- 勇気が保険屋の今井さんを通して、成長していくことがとても伝わりました。
- 今井さんが田端くんのお父さんに「当たり屋は犯罪です。」といい放った場面が自分には、とてもできないなと感じ、そんな勇気がほしいと思えました。
- 保険やさんの仕事は、大変だと思いました。
- 保険代理店の今井さんとすごして、すこしずつ勇気が変わったのがおもしろい。
- 保険が大事だなとあらためてわかった。最後にマロンをとうして中里さんと仲良くなれてよかった。
- 勇気は最初はさえない男子だい表だったけど、今井さんとジョブトレーニングするうちに少しずつ変わっていく所がよかった。



- 蘭はしずくに、いじわるをしてしまったなんて思ったことを話さないんだと思ってたけど、夜の学校で、しずくと逆の立場に立ったときの気持ちが分かってよかったと思いました。
 - 私も昔、しずくちゃんと似たようなけいけんをしたことがあり、すごくきょうかんできました。私はいじめてきた子をずっとむししてきましたが、この本を読んで考え方が変わり、こんど自分から声をかけてみようと思えるようになったし、感動ですごく心に残りました。
 - 読んでいると不思議な気持ちになり、心がほっこりしました。灯台守や始業ベルが夜になるなど、想像力を沢山使うストーリーでした。
 - ちがう世界に来てしまった蘭をとりまくクラスメート達の性格が反対で読んで自分もふしぎな感じがしておもしろかったです。
 - らんが二人いたのでびっくりしました。もしかしたらほかの世界にも同じ自分がいるのかなあと思いました。
 - 白い顔をしたクラスメイトなどがでてきてとてもおもしろかったです。
 - 本の表紙を見たとき、夜の学校って何だろうと思ったが、それは太陽の光にあたりたくないから、夜の学校に来ているのがわかった。
- 『希望への扉リロダ』 渡辺有理子／作（アリス館）
- この本を読んで始めて故郷を追われる人がいる事や、「難民キャンプ」があることを知りました。
 - なん民キャンプにできたりロダではたらくことにした主人公少年との関係が良かった。
- 『かえだま』 小森香折／著（朝日学生新聞社）
- 大和が勇二郎と入れかわって事件をかいけつしたところがおもしろかった。
 - 大和が明治時代の勇二郎と魂が入れ替わり、まわりからいろいろあやまれるので、読んでいてハラハラしました。

2013年3月3日